

### 刀の鞘と染め物の専門職人がいた

**9 北鞘町** (現・日本橋本石町一丁目)  
刀剣の鞘をつくる職人が住んでいたことに由来する。京橋の南鞘町と区別するために北をつけた。刀を販売する店もあった。



**10 品川町** (現・日本橋室町一丁目)  
もともとの町名は品革町だったようだ。品革とはもようをほった皮革製品のことで、その職人がたくさん住んでいた。革が川に変わって品川町になった。

### 呉服屋といえばここ!

**11 呉服町**  
(現・八重洲一丁目、日本橋一〜二丁目)  
呉服師がたくさんいた町。幕末まで将軍などが好んで着ていた呉服師だった後藤家の住まいがあったことから、この名がついた。



### 日本橋南側のショッピング街

**12 通町** (現・日本橋一〜三丁目)  
江戸のメインストリートだった通町筋(現・中央通り)の両側にあった町。日本橋は東海道の起点であり、大通りだったことから、そのまま「通」と名づけられた。日本橋をささんで室町から続く大通りには大店が軒を連ね、江戸を代表するショッピングストリートだ。

### 曲げわっぱの名人がいた!

**13 桧物町**  
(現・八重洲一丁目、日本橋三丁目)  
徳川家康が入城の際に連れてきた遠州浜松(現・静岡県浜松市)の桧物大工のとうりょうが住んだことから名づけられた。桧物とは木をうすくむいて曲げて加工したもの。弁当箱などにつかわれる曲げわっぱとして知られる。



© (→ p.168)



### 米や塩が全国から集まった

**14 伊勢町** (現・日本橋本町一〜二丁目)  
町名の由来は2説あり、1つは伊勢国(現・三重県北部)出身の商人が多く住んでいたから。もう1つは、1590(天正18)年、小田原城の落城後に北条氏が伊勢を名乗って、この地に住んだからというもの。西堀留川に沿った河岸には全国から米穀や乾物などが集まり、塩河岸、米河岸には蔵が建ち並んでいた。

### 江戸前の魚市でにぎわう

**15 日本橋魚河岸** (現・日本橋室町一丁目、日本橋本町一丁目)  
日本橋から江戸橋に続く辺り。本船町、長浜町、安針町、本小田原町を中心とする魚市場の町。漁師たちは江戸の初期から魚を幕府に納めていたが、残った魚を町中で販売することが許可され、市場を開いたのがここだ。



### 江戸城建設の材木商人が住んでいた

**16 本材木町** (現・日本橋一丁目)  
江戸城をつくるときに使う材木をあつかう商人が楓川の西側に住むようになったことから、この辺りが材木町とよばれるようになった。また、江戸城を建設しているとき、材木置き場があったという説もある。

**17 元大工町** (現・八重洲一丁目、日本橋二丁目)  
大工がたくさん住んでいたため町名になった。

**18 数寄屋町** (現・八重洲一丁目、日本橋二丁目)  
今の銀座五丁目にあったが、この場所に移った(→p.178)。

### 堀を埋め立ててできた町

**19 音羽町** **20 小松町** **21 新右衛門町**

**22 福島町** (現・日本橋一〜三丁目)  
江戸城をつくるとき、資材を運ぶ船が入るように楓川から江戸城方面に10本の堀がつくられた。江戸城の建築が終わり、1690(元禄3)年に堀が埋め立てられると、その上にたくさんの町がつくられた。

**23 上槇町・下槇町** (現・八重洲一丁目、日本橋三丁目)  
槇町は材木をあつかう商人が多く、材木置き場でもあったことから名づけられた。

今の町名と全然ちがうね。



© (→ p.177)

